高岡市男女平等推進プラン情報誌

2008秋
6号

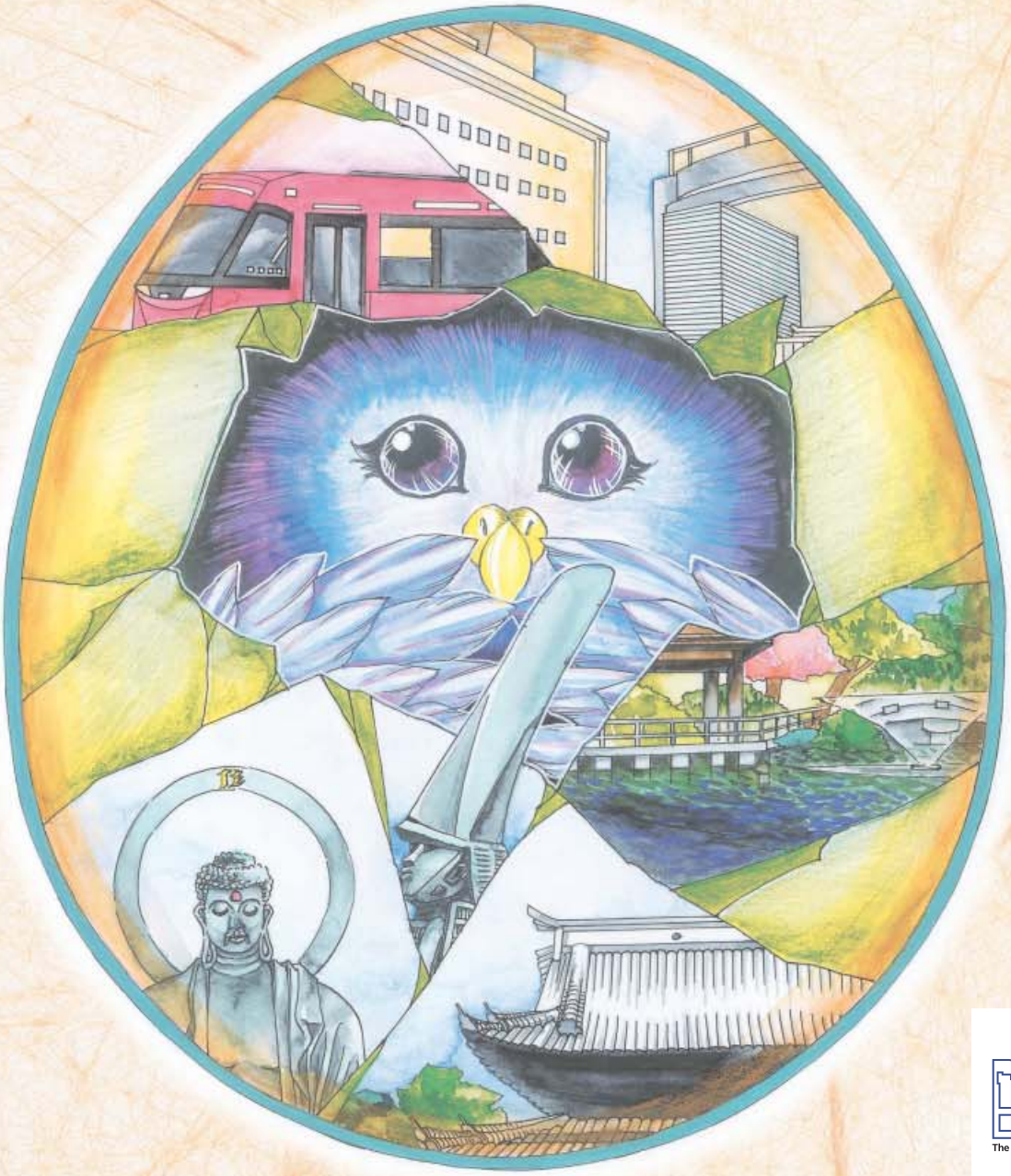
わたしの未来はわたしが創る

ありーて

「ありーて」は
自分の力で問題を解決していく
イギリスの童話
「アリーテ姫の冒険」の
主人公の名前です。

もくじ

■特集 STOP! ザ・温暖化
～活かそう、女性のちから～・・・・・p2
■センター活動登録団体紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・p6
■ぼくの育児&育自日記／浜本徹さん・・・・・・・・・・・・p6
■セピア色の写真から／亀岡綾子さん ・・・・・・・・・・p7
■センターから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p8



開町400年 Anniversary
The City of Takaoka 1609-2009

高岡市男女平等推進プランでは、男女が共に十分に能力を発揮し、責任を担い参画していくため、地域活動の場での協働や、男女平等・共同参画の推進を重要な課題の一つとして掲げています。

そして、その課題解決のための取り組みの一つとして、行政と市民・事業者等が、防災・災害復興・観光・環境保全等の様々な分野における協働のまちづくりを進め、女性の関心や知識・経験を活かした地域課題の発見・解決に努めることなどを、男女共同参画を推進することとしています。

STOP! ザ・温暖化

～活かそう、女性のちから～

地球温暖化がこのまま進んだら、子どもたち、そして、孫たちの未来はどうなってしまうのでしょうか…。子育て世代が安心して子どもを生み育てるうえで、未来の地球環境は大切なこと。

「環境保全」の分野の施策・方針決定の場にも、女性の参画が進むことによって視点が広がり多様性が生まれ、プラスの効果をもたらすのではと考え、今回このテーマを採りあげることにしました。

また、平成20年版男女共同参画白書によると、最近では地域のつながりが希薄化し、地域活動への参画率も低調な一方で、地域の様々な活動に対する女性の意欲は高まっており、地域活動の担い手として大きな期待が寄せられているといいます。

世界的な環境保全の課題、富山県や高岡市内の地域活動・企業活動の事例を見ながら、わたしたちができることを考えていきます。

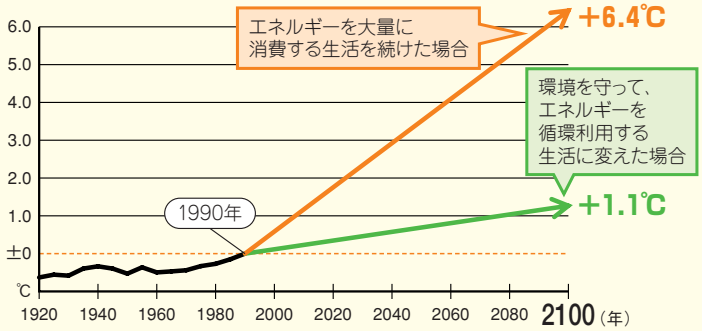
地球温暖化による環境変化

このまま大量に二酸化炭素などの温室効果ガスを排出し続けると、二一〇〇年には一九九〇年に比べ最大で6・4℃の気温上昇との予測もあります。

それにともない、異常高温や氷河が溶けることによる海面上昇、台風の強大化、環境の変化による生物の絶滅、干ばつや水不足、農産物の収量が減ることによる食料不足、マラリア病などの熱帯性の感染症の被害範囲の拡大などが大変心配されます。

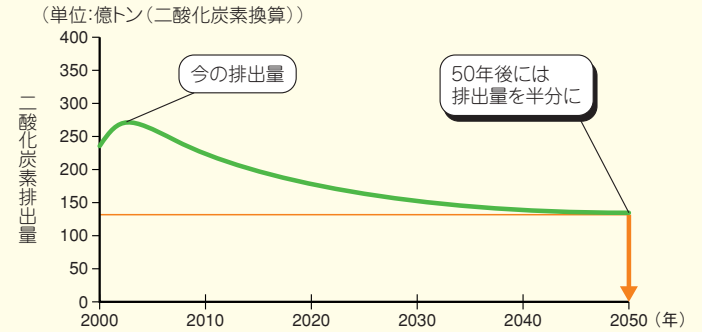
わたしたちの暮らしは今、二酸化炭素排出量の少ない低炭素社会への転換が迫られています。

●過去の気温と将来の気温上昇の予測



平成19年版「こども環境白書」（環境省）
資料:IPCC第4次評価報告書～第1作業部会報告書より

●世界の二酸化炭素排出量の削減目標



平成19年版「こども環境白書」（環境省）より

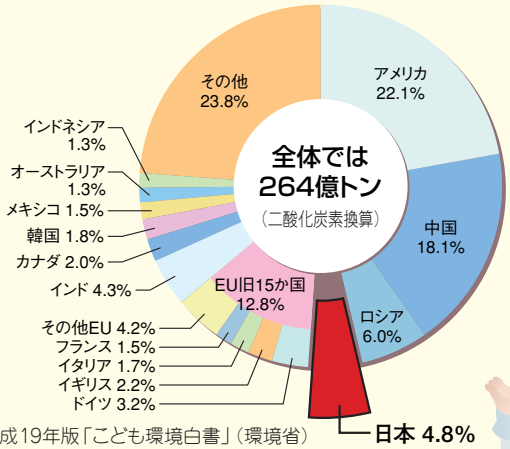
地球温暖化と貧困

現在、温暖化による被害は、温室効果ガスを大量排出する日本（排出量が世界第4位）のような豊かな国よりも、排出量の少ない貧しい国々で多く発生しています。

自然災害や食糧不足が起こると、社会的・経済的・健康的に弱い立場にある人々はより深刻な影響を受けます。

「世界で貧困状態にある11億人の約70％は女性とも言われ、例えば、世界の非識字者の3分の2を女性が占める」（外務省ホームページより）、地球温暖化はそのような女性の教育の機会や健康的な生活をも奪い、よりいっそう社会参画しにくい状況をつくり出します。

●世界の二酸化炭素排出量



平成19年版「こども環境白書」（環境省）
資料:日本エネルギー経済研究所編
「エネルギー・経済統計要覧（2007年版）」より

環境保全と女性の参画

平成20年版男女共同参画白書によると、「環境問題に取り組む際には、リサイクルを始めとして生活者の視点から興味・関心を抱く場合も多く、『環境』は、女性の関心も高い分野」です。

女性の意欲や能力を地域に活かすことは、様々な課題を抱える地域社会にとっても有益ですし、実践的な活動を通じて女性自身の成長が図られるという双方向の効果をもたらすといわれます。しかし、女性が地域のリーダーとして活躍する機会は少なく、女性の力が十分に活かされていないという課題もあるようです。

要因としては、「家事や育児は女性の役目」「世帯や組織の代表は男性」といった固定的役割分担意識や、共働き率が高い富山県女性にとっては、地域活動に参画する時間がとれないことなどがあげられます。こういった意識を変えていくことや、参画しやすい環境を整えることも大切です。

また、地球温暖化対策のなかでも節電・節水や地産地消を考えた食材・食品選び、リデュース（廃棄物の発生抑制）・リユース（再利用）・リサイクルなど、日常生活を地域から変えていく取り組みには、女性の意識や行動力が大きな力になります。子どもたちと一緒に学んだり、社会参画の機会を積極的につくるなど、生活習慣や地域づくりに関わる分野での活動が期待されます。

「高岡市環境指針」（平成20年・高岡市）では、環境に大きな負荷をかけない『健やかで美しく豊かな環境のまち』をめざし、市、事業者及び市民が、参加・協働して、共に環境の保全に取り組み、持続可能で活力ある高岡市の発展を図ることを掲げています。

次のページでは、環境保全に実際に取り組んでいる事例を紹介します。

【参考資料】
平成20年版環境・循環型社会白書（環境省）
平成19年版こども環境白書（環境省）
人間開発報告書2007／2008概要（国連開発計画UNDP）
平成20年版男女共同参画白書（内閣府）

【協力】
本田恭子さん（環境教育コーディネーター）

協働とは？

「協働」とは、目的や性格の異なる組織が、共通の社会的な目的を実現するために、それぞれの組織の力を合わせ、特色を生かしながら、対等の立場で、共に考え、共に協力して働くことをいいます。

また「参加」とは、主として組織や企画された事業等に市民が主体的に加わることや、協力することです。「参加」は、協働の礎であるとともに、市民のまちづくりへの夢を喚起します。市民の積極的な参加によって、真の協働を進めることができます。

「高岡市 市民と行政の協働のルール」より

環境保全に協働で取り組む、
わたしたちのまちの
市民グループや企業、NPOの
皆さんにお話を伺いました。

環境にやさしいまちづくりをめざす 市民グループ・企業・NPO

4月より富山県は、全国初の取り組みとして、県内全域で一斉にレジ袋無料配布取り止めに踏み切りました。マイバッグ推進運動に長年にわたり取り組んできた『たかおかマイバッグ運動を進める市民の会』の会長、辻やす子さんにお話を伺いました。

たかおか
マイバッグ運動を
進める市民の会
会長
辻　やす子 さん

この会は、平成12年に高岡市連合婦人会などを中心とした一般消費者と事業者、高岡市で設立し、これまでマイバッグに関するアンケート調査や街頭キャンペーンなどを展開してきました。

昨年には、富山県レジ袋削減推進協議会が立ち上がり、その後、県内スーパーなどが一斉に無料配布を取り止めたのは、県民の行動力、事業者の理解と決断、そして行政が全面的にサポートした結果だと思います。

レジ袋無料配布取り止めによって、地域社会や消費者、企業の環境保全意識が高まり、温暖化防止の認識が広く得られました。今後は、参加企業の業種を広げることや、マイ箸・わりばし回収活動、包装紙などの削減も視野に入れて、新たな活動を進めていきます。

レジ袋を日々、無感覚に使い続ける意識を改め、いま私たちが出来ることから地球を守っていきたいと思います。

レジ袋の無料配布取り止めへの企業側の思いや、取り止め前後ではどのような変化があったのか、お話を伺いました。開社長は『たかおかマイバッグ運動を進める市民の会』の副会長も務め、以前から、レジ袋を必要としないお客様にポイントで還元したり、食品トレーの回収などに力を入れてこられました。

株式会社 ヒラキストア
代表取締役社長
開　貞二 さん

環境保護に力を入れようと考えたのは、父である先代社長の頃からの社訓にあった『人の役に立ちたい』という奉仕の心を形にしたかったからです。レジ袋無料配布取り止めによってのデメリットが無いわけではありませんが、ふだんは競争相手である他店とも手を結び、子どもたちの未来のために一歩を踏み出せたことは、大きな意義があります。

現在、お客様のご理解によってマイバッグ持参率は九割を超え、嬉しく思っています。本県での成功理由は、県の呼びかけで多くのスーパーが参加したことや、地元企業が多いため、意見がまとまりやすいことにあったと思います。

今後は一歩進めて、ゴミを出さない社会となるように努力していきたいです。

レジ袋から出る二酸化炭素の量は、全体からみれば1%にも満たないそうですが、環境保全のためには、大きな一歩だと思います。

ひとがいきいきと暮らせる環境を、意識やシステムのソフト面と、道路など社会資本整備のハード面とを一体として考え、女性の視点を活かし、経済・社会・環境のバランスのとれた持続可能な社会づくりをめざして活動する『Nプロジェクト ひと・みち・まち』理事長の巴陵嘉子さんと事務局長の山下久美子さんにお話を伺いました。

NPO法人
Nプロジェクト
ひと・みち・まち
理事長
巴陵 嘉子 さん
（写真左）
事務局長
山下久美子 さん

今年度は、富山県の『とやま夢づくりNPO協働事業』に提案し選ばれた『自転車de地域デザインin高岡』プロジェクトに取り組んでいます。様々な立場や視点をもつ人々に参画してもらい、まちづくりを考えていきます。

環境にも健康にも良い自転車に着目し、これからの高岡市民の暮らし（生活スタイル）や観光のあり方をみんなで考えつくっていきたいと、行政・企業・市民団体やグループなどで研究会を新たに立ち上げました。それぞれの得意分野を活かし合い、高岡のまちを元気にしていきたいと思っています。

次の世代に、〝誰もが暮らしやすい高岡〟をバトンタッチしていきたいと思っています。

自転車を通して、話し合いの輪を広げ、それぞれの立場で考えることで、思いやりの輪も広がるのではないでしょうか。

私たち、一人ひとりにできること

ここに、「とやまエコライフ・アクト10宣言」（富山県）や「高岡市環境指針」ほか、実際に地域や職場で行われている地球温暖化防止のための取り組み、エコグッズなどを紹介します。「CO_2（二酸化炭素）削減」をより身近に感じ、私たち一人ひとりがそれぞれの場でできること、「Myエコ」を実践してみませんか。

とやまエコライフ・アクト10宣言

- ACT 1　冷房の設定温度は28℃、暖房時の室温は20℃にしよう
- ACT 2　水道の蛇口はこまめにしめよう
- ACT 3　ふんわりアクセル「eスタート」（エコドライブ）をしよう
- ACT 4　エコ製品を選んで買おう
- ACT 5　無駄なレジ袋は断ろう
- ACT 6　電化製品はコンセントからこまめに抜こう
- ACT 7　マイカーに乗らずに出かけよう
- ACT 8　自然とふれあい、緑を守り育てよう
- ACT 9　資源回収等の地域の環境保全活動に参加しよう
- ACT 10　とやまの旬の食材を食べよう

ACT1～6…チーム・マイナス6％の取り組み
ACT7～10…とやまオリジナルの取り組み

家庭でできること

そのほか、エコグッズや知恵

○3R[※1]の推進。
○冬にはカーテンを厚地にし、室温を保つ。
○省資源・省エネルギーの給湯器・家電製品を選ぶ。
○駐停車中はエンジンを切ったり、無駄な荷物を積まないなど、「エコドライブ」をする。
○節水型シャワーヘッドや、蛇口用節水器具を使う。
○スイッチで電源をオン・オフできるエコタップ（延長コード）を利用する。
○開けた時に冷気を逃がさない、冷蔵庫用カーテンを使う。
○白熱電球を電球型蛍光ランプに変えて消費電力を抑える。
○廃てんぷら油やわりばし回収への協力。
○環境家計簿[※2]をつける。

など

※1　3R……リデュース（Reduce　廃棄物の発生抑制）、リユース（Reuse　再使用）、リサイクル（Recycle　再資源化）この3つの英語の頭文字を取って3Rという。環境と経済が両立した循環型社会（天然資源の消費量を減らして、環境負荷をできるだけ少なくした社会）を形成していくためのキーワード。

※2　環境家計簿……家庭での電気、ガス、水道、灯油、ガソリン等の使用料や支出額を集計して、二酸化炭素などの環境負荷を計算できるように設計された家計簿のこと。

地域でできること

○環境保全を行っている市民グループや自治会、学校などで行われる資源回収や美化活動に参加し、美しい地域環境の保全に努める。
○地産地消や緑化、万葉線やコミュニティバスなどの公共交通の利用など、地域に根ざした課題について学び、環境保全活動につなげる。

など

職場でできること

○省エネや環境に配慮した商品の開発
○物流システムを見直し、輸送車数を減らす工夫をする。
○クールビズやウォームビズを取り入れ、オフィス内の冷暖房の利用を少なくする。
○トイレやロッカールームの電灯を人感センサー付きのものなどにして、不用な電力を使わない。
○自然光を利用し、支障のない範囲でオフィスの電灯を間引きする。
○事務用品などは環境に配慮したものを優先的に購入する。

など

まずは、一人ひとりの自覚から始めよう

富山県[※3]の調査によると、県内の二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスの排出量は二〇〇五年度で13、187千トン（一九九〇年度と比べると4・6％増・二酸化炭素換算）。部門別でみた二酸化炭素の排出状況は、家庭部門が一九九〇年度と比べて31・5％増と大きく増加しているそうです。

京都議定書における日本の温室効果ガスの削減目標は二〇〇八～二〇一二年の年間排出量を一九九〇年度比で6％削減するというものです。

私たちは、未来の子どもたちに対して、美しい地球・住みやすい地域を残す責務があります。私たちができること、それは一人ひとりが自覚を持ち、〝温室効果ガス6％削減〟という目標に向かって進むことではないでしょうか。

私たち自身が発信者となり、これらの取り組みを地域から社会へ、さらには国や地球全体へと広げ、世代を超えて多くの方に参加してもらいながら、次世代につないでいきましょう。

※3「2005年度の温室効果ガス排出量の推計結果について」（平成19年　富山県）

高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

高岡家庭教育研究グループ ほほえみ会

家庭崩壊が深刻化している今日を憂い、子育て経験者の私たちが“東京家庭教育研究所”で学んだテキストからテーマを選び研修し、日常生活の中での悩みや問題をお互いに出し合い、話し合っています。「個人を尊重し命の尊さを大切に」を基本理念に、「子どもに学ぶ家庭教育」つまり、相手を変えるのではなく、相手の視点に立って事象から学び、情操豊かな人間らしい人間にと・・・。皆さんで楽しく明るく語り合うふれあいの場としています。

かようう会

食と食育に興味・関心があり、地域での関わりの中で自己研修をしていこうというグループです。日常生活の中で、男女関係なく食の自立を目指している人を支援するため、“あしつきふれあいの郷”において、利用者と共に昼食を作り、昼食会に参加しています。ボランティアについても様々な話し合いの中で学習しているところです。食に関心のある方、共に学びませんか? 参加をお待ちしております。

ご存じですか?

登録団体とは

男女平等・共同参画の推進に関する活動を展開しようとする団体で、次の事項を満たしていることを条件としています。

1. 5人以上の構成員を有する。
2. 目的をもって計画的な活動を実施している。
3. 代表者が高岡市に住所があるか、在勤・在学している。
4. 営利を目的としていない。

メリットは

○センターや他の団体との情報交換がスムーズになります。
○活動のための物品が収納できるロッカーが使用できます。
○希望される団体は、センターのホームページで活動内容を紹介します。

これは便利!　活動の場が広がりそう!　仲間が増えるかも!

あなたのグループもセンターに登録しませんか?

上記の団体・グループへのお問い合わせは、高岡市男女平等推進センターTEL(0766)20-1810まで。
センターのホームページ(http://www2.city-takaoka.jp/gec)でも、登録団体・グループを紹介しています。

2008年7月末現在の登録 47団体

ぼくの育児&育自日記

浜本　徹さん

氷見市在住。伏木郵便局勤務。子ども2人と妻の4人家族。36歳。

私には、小学二年生の長男と年長の二男、二人の子どもがいます。そして、もうすぐ三人目の子どもが生まれます。

まず、子どもたちの紹介をしていきたいと思います。長男はすぐ泣く、泣き虫お兄ちゃん。二男は何をするにもどこへ行くにもお兄ちゃんと一緒じゃないと駄目な、甘えん坊。『ぼくの育児』といっても何もやれてないような気がしていますが、改めて何をしているかなと考えてみると…。

毎日、長男を学校へ送って行くこと、休日は二日あるうちの一日は子ども二人を連れて遊びに出かけています。普段、仕事で遊んであげることができないので、休みの日ぐらいは三人で思いっきり遊びたいと思っています。

また、ママをゆっくりさせてあげたい気持ちもあるので、男同士で公園やいきいき元気館(氷見市にある体育館)に出かけます。そこで、家でもやっているかくれんぼをして遊びます。「もういいかい」「まぁだだよ」必ず私が鬼になり、子どもたちを探します。家では隠れるところがたくさんあるので探しがいがあるのですが、公園やいきいき元気館ではすぐに見つけられます。でも、分からないふりをして探すのも私の役目です。子どもたちは見つけられると必ず走って逃げ回り、そこから鬼ごっこが始まります。走って、走って…帰るころには私も子どもたちもくたくたに疲れてしまいます。

帰ってからは眠たい目をこすりながら、ママが作ってくれたおいしいご飯を食べて、そのあと三人でお風呂に入り、歯を磨き「ママおやすみなさい」と言って三人で川の字になって寝ます。

普段は母親に任せっきりの育児ですが、休みの日くらいは少しでも自分がしたいと思っています。これが私のやっている『ぼくの育児』だと思います。

セピア色の写真から

「人生、常に夢をもって新しいことに取り組む」

―唄うこと、かくことが「活きる力」、そして健康へと繋がる―

亀岡綾子さん（一九二八～）

「地元の人に郷土の歴史に興味を持ってもらうきっかけになれば嬉しい」と、亀岡さん（砺波市在住）は二年前に『越中昔ものがたり』を出版。〝前田利長と高岡城〟をはじめ、来年には開町四百年を迎える高岡市にまつわる物語も収められています。

結婚前の数年間、高岡市内で小学校教師をしていた経験もある亀岡さんは、五十代で民謡、太鼓、三味線、文芸、日本画の道に。常に向上心と信念を持った生き方をされてきた亀岡さんに興味深いお話を伺いました。

教師時代の綾子さん

終戦直後の子どもたちの周辺

第二次世界大戦後の数年間、亀岡さんは市内の小学校に勤めていた。

「当時の子どもたちは、働き盛りの父親を戦争に連れて行かれたり、戦死によって失ったり、食糧事情の困難な家庭環境にありました。しかし、母の大きな慈しみや、祖父母の愛に守られ、また近所の人々に支えられ、とても素直に、丈夫に育っていました。国語の時間に詩を書いてもらったことがありましたが、実に純真でやさしく、感動する作品ばかりで、私はこの子どもたちが、何としても真っすぐに美しく育ってくれるように、そして、戦争のない平和な世であることを心から願いました」

平和が取り戻されると、世の中では忘れられ、おざなりにされていた文化的な情操的教育の大切さが叫ばれるようになった。教師も自分自身を磨く必要があったため、亀岡さんも京都から疎開していた日本画家のもとに通い、絵を描いた。基礎は難しかったが、大切なのは感性や個性であり、人の模倣ではいけないと思った。

結婚、人生自分流

亀岡さんは、結婚が決まったのを機に職を辞し、和裁や生け花の花嫁修業をする。「喰いっぱぐれのない農家がよいだろう」という父母の薦めに従って嫁いだ先は、義父母と夫の弟妹三人のいる七人家族。そして手作業の厳しい重労働が待っていた。亀岡さんは、これもそれぞれに課せられた運命と従った。

しかし、働いて疲れて眠るだけの日々は、泥沼に足をとられて先の見えない生き方に思えてならず、これではいけないと常に感じていた。そのうちに義父母が次々に病気になり、小学生の子ども二人を抱えての家事と家業、病院への寝泊りや介護では、体が壊れるのではないかと思ったそうだ。

義父母を見送り、三人の弟妹を独立させ、二人の息子に手がかからなくなった頃、亀岡さんはストレス解消にと東京の同人誌や高岡の「北日本四季の会」、富山の「北日本いこいの会」にも参加し、日頃の思いを書き送るようになる。

「例会では研修し、文学散歩では視野を広げます。これらは同好の楽しい会で、年四回の文章発表と出版の喜びが味わえるのです」

民謡、三味線、創作、日本画

五十歳の頃、亀岡さんは夫に言った。「週に一回だけ、夜の片付けを済ませたら、九時頃まで暇がほしい。仕事はちゃんとしますから」と。はじめは難色を示していた夫であったが、後には協力してくれるようになる。

先ず、尺八の音に誘われて民謡を習い、後に三味線から太鼓、謡から長唄へと幅を広げた。さらに、頼まれて三味線の出稽古に行き、共に楽しむ日々・・・。

家では菊の露地栽培をしていたので、花作り教室へ月二回出かけて研修を受ける。そして今度は、花が美しいと眺めるだけでは飽き足らず、描くことに。日本画を習って、写生会やスケッチ旅行を楽しむ。公募展に出展する機会も多く、過去に七、八回の入賞経験がある。唄う楽しさ、書くこと、描くことが亀岡さんの「活きる力」、健康へと繋がっているという。

『越中昔ものがたり』を出版

「学生時代に少し作文をほめられたとか、学級発表の際には絵画を出させてもらっただけのささやかな喜びや、地区の音楽会で独唱をさせてもらった小さな出来事が、後々までも大きく影響し、私自身を活かすことにつながっていると思います。書くことはストレス解消にもなりますし、その時々の世相、少年問題、老人の現状を見聞して、悲しみ、怒りを表現することもできます。旅をして驚き、新しく発見したことは私自身の活きる力となっていますし、また、文章にすることで、訴え、知らせ、共感を得、争いのない平穏で安心できる暮らしを、皆で祈りたいのです」と話す。

『越中昔ものがたり』の出版に当たっては三十年来、書き続けてきたものの中から、特に郷土越中にまつわる十一編の歴史上の物語、事件などを収めた。越中の地を蹂躙（じゅうりん）し続けた戦国抗争や藩政時代の失政で天災、水害、飢餓に底辺の民が塗炭（とたん）の苦しみを味わう、厳しく悲しい歴史が伝えられている。

五十代を転機に、自分らしく〝活きる道〟を見つけて歩んできた亀岡さんは、次なる歴史物や絵画の制作にも意欲的で、いきいきと輝いて見えました。

センターから

高岡市男女平等推進センター

高岡市男女平等推進センター
所長　野　村　乙　美

「男女平等・共同参画都市宣言」を11月に迎えようとしている高岡市。準備に取り掛かる熱心な市民活動の真っ只中にいると、ふと4月に行った南アフリカ共和国の旅を想い出す。

かつては男女不平等どころか、黒人には選挙権も発言権も無く、白人専用の公園に入っただけで逮捕されると云われた人種隔離政策（アパルトヘイト）の国。その下では、子どもさえも投獄されたという。そんな国が、1990年に今の政権政党アフリカ民族会議のネルソン･マンデラ氏が釈放されたのをきっかけに、1994年には民主化が達成された。そして世界で最も民主的といわれる憲法が作られ、人々が真に平等に暮らせる社会基盤が実現できたと聞く。それから十数年が経過した南アフリカの現地を旅して、「是非この目で生まれ変わった国の姿を見たい」と感じての旅だった。

30時間かけてヨハネスブルグに到着し、まず目に飛び込んできたのは国道の両側にある多くのスラム地域。電気も水道も無いバラックが立ち並んでいるではないか。現地ガイドに訊ねると貧困地域と富裕層が住む地域もまだ存在するし、子どもたちの教育施設や教材の格差もまだあるという。そんなに簡単に、多様な人種、民族、宗教、言語、複雑多岐な文化が、貧富の差の無い国になるはずもなかったのだ。

現地村の人々に疑問をぶつけると、辛抱強く対話を続けたお陰で、今は民主化を果たしたという誇りと、あらゆる違いを尊重し認め合う社会づくりに努力している様子が伺えた。何よりも食料の自給自足で自立することからと捉え、「各人が自信や誇りの持てる暮らしができるよう、お互いに助け合い共に乗り越えるのだ」と目を輝かせながら老若男女が熱き未来を語ってくれた。そして、私たち観光客にも「自立心を育てるためにも、安易に子どもたちに物を与えるな」と厳しく諭した。

晴れ渡った真っ青な空と、広大な川と、大地に太陽、この大自然の恵みの中で、野生も人間も謙虚に生きるこの国には、どんな時も歌声が絶えなかった。明るい希望に満ち、2010年にはサッカーワールドカップも開催される南アフリカの変化に喜び、わが高岡市の環境に暮らせる幸せを感じている。「男女平等・共同参画都市宣言」も17万人の高岡市民みんなで盛り上げ、意識の醸成を図りたい。

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありーて」は男女平等･共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画･編集しています。

【編集委員】　青島　幸子
川縁晴津子
久湊　洋子
山田　美紀

ありーて　キャラクターデザイン：山崎 可菜さん（高岡市在住）
表紙イラスト：川縁 晴津子さん（ありーて編集員）

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023　高岡市末広町1-7（ウイング･ウイング高岡6階）
電話／0766-20-1810　FAX／0766-20-1815
E-mail／gec@office.city.takaoka.toyama.jp
ホームページ／http://www2.city-takaoka.jp/gec/

●「ありーて」は上記のＨＰでもご覧いただけます。
●この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

男女平等EXPO 高岡2008

今年のテーマ　**わたしの思う男女平等**

わが家･わが社･わが高岡（地域）の“男女平等”について、あなたの体験談を募集します。

「ここがすばらしい」「こんなに変わったよ」
「ここがいい」　「こんなに幸せになれたよ」
「ここが変だよ」　など

優秀作品には賞品を添えて表彰いたします。

◆募集期間　9月30日（火）まで

◆応募方法
男女平等推進センターや市役所1階ロビー、各支所、公民館などに置いてある応募用紙にて、郵送･FAX、またはセンターのホームページからも応募できます。

◆表 彰 式　11月1日（土）午後1時30分～
ウイング･ウイング高岡4階ホール

（詳細はセンターホームページなどでご確認ください）